



無限の慈愛

スワミ・クリッパナンダ

それは、バーバ・ムクターナンダがシャクティパート・インテンシヴを行った日の夜のことでした。バーバは、3回目の世界ツアーでオーストラリアに滞在中で、宿泊していたメルボルンのシッダ・ヨーガ・アーシュラムの自分の部屋に戻っていました。ドアがノックされるのを聞いた時、私はバーバのナマステー・ルームで何か仕事をしていました。そこはバーバがよく訪問者と会うのに使っていた部屋でした。ノックに応じてドアを開けると、そこには美しいカトリックの修道女が立っていました。

「スワミ・ムクターナンダはこちらにいらっしゃいますか？」と、彼女は優しく尋ねました。私は、バーバは夜になったので既に部屋に入って、誰とも会わないのだと説明しました。その修道女はとてもがっかりした様子で、「どうかお願いします。私はここに来るために、修道院から 70 マイル(約 110 キロメートル)運転してきました。お会いせずに戻りたくはないのです」と言いました。私はバーバの付き人を探しに行き、その話を伝えました。彼はバーバの部屋に入っていました。

数分後、バーバは姿を現し、修道女をナマステー・ルームに案内するよう、私に言いました。バーバは自分の椅子に座ると、とても優しく、修道女に近くに来るよう身振りで示しました。彼女は突然泣きだし、バーバの足元にひざまずきました。彼女は、バーバの顔をテレビのニュースで見てから、自分に何かが起こったのだと説明しました。自然に瞑想に入って、彼女が幼い頃からカトリックの教育で学んできた聖書からの真理を直接体験し始めました。それまでは、彼女はそれらの真理をただ知識として理解していました。ついに、彼女はそこで語られていることの本質を理解したのです。

バーバは彼女の涙を拭い、大きな愛と慈悲を込めて彼女の頬をなでました。「バフトゥ・アッ
チャ！」と、バーバは穏やかに叫びました。「素晴らしい！」バーバは彼の著書『クンダリー
生命の秘密』を彼女に渡すように、そして修道院に戻る前に食事を出すように言いました。そ
れからバーバは自分の部屋に戻って行きました。



© 2024 SYDA Foundation®. 著作権所有。